

原 著

医療安全に関する意識向上を目指した育児休業者職場復帰前安全教育の効果

伊都 香, 埴岡康恵子, 峰平一二美

和歌山労災病院

(平成 21 年 2 月 23 日受付)

要旨: 当院看護部では「職場の適応性及び看護の知識・技術の経験能力の維持を図り, 円滑な業務遂行に資すること」を目的に育児休業者に復職前 3 日, 復職後 3 日の育児休業者職場復帰教育を平成 14 年より実施している。その教育プログラムの一つの目標として「事故防止・感染防止に配慮できる」を掲げ, 職場復帰前に医療安全についての講義と演習を実施した。医療安全についての講義と演習に, 約 2 時間 30 分の研修時間を設定し, 平成 19 年度は 16 名の育児休業復帰者に研修を行った。

講義の内容は「なぜ, 今, 医療安全が重要なのか」「医療事故は何故起こる」「当院の医療安全体制」「保健師・助産師・看護師法と個人情報保護法」等 7 項目を行った。また, 演習は, 平成 19 年度の医療安全推進委員会の目標として全職員で取り組んでいる危険予知トレーニングを取り入れた。

職場復帰前研修直後のアンケート調査結果では, 理解度, 役立ち度で良い結果を得ることができた。しかし, その他の意見として医療事故への予期不安を訴える意見もあった。職場復帰後のアンケート調査結果では, 役立ち・活用度において良い結果を得ることができた。また, 研修が役に立った具体例として「ミスを起こさないためのポイントがわかり業務に入りやすかった」「事故の対処方法がわかり慌てず対応できた」等の意見を得ることができ, 現在, 3 名の再育児休業者を含め, 平成 19 年度育児休業復帰者からの離職者は無く経過し, 当院の育児休業者職場復帰教育が復帰者への一支援と成りえた。

(日職災医誌, 57:293—296, 2009)

—キーワード—

育児休業者, 離職, 医療安全教育

I はじめに

当院看護部では「職場の適応性及び看護の知識・技術の経験能力の維持を図り, 円滑な業務遂行に資すること」を目的に育児休業者に復職前 3 日, 復職後 3 日の育児休業者職場復帰教育を平成 14 年より実施している。

今回, その教育プログラムの一つの目標として「事故防止・感染防止に配慮できる」を掲げ, DVD を取り入れた講義と演習を行う医療安全教育を, 職場復帰前に育児休業者に実施した。

II 当院の概要

和歌山労災病院は地域医療連携を推進する急性期病院で, 入院基本料は平成 19 年度より 7:1 看護を取っている。勤務は 8 時間 3 交替制で, 看護提供方式は固定チーム継続受け持ち制を導入している。平成 21 年 1 月 13 日

より新病院となり病床数 303 床で新しくスタートした。

III 離職の現状

日本看護協会の「病院における看護職員需給状況調査」結果では平成 17 年度看護職員離職率は 12.3% で前年度と比較し 0.2 ポイント上昇していた。同調査で子育て期の看護職員の定着対策として, 育児休職後の職場復帰支援プログラムを実施している病院は 12.5% だった。

当院の離職率は平成 16 年度 9.0%, 平成 17 年度 7.5%, 平成 18 年度 8.4%, 平成 19 年度 4.5% だった。

IV 実施内容

当院の育児休業者職場復帰教育の目標は,
1 労働者健康福祉機構の動向と和歌山労災病院の現状について認識できる
2 看護の動向を知り, 看護部の理念と基本方針が理解

表1 教育プログラム

		研修内容	担当
職場復帰前	《1日目》 13:30～16:00	・独立行政法人労働者健康福祉の動向と和歌山労災病院の現状 ・職場復帰前面談 ・看護部の理念・目標・看護の動向	看護部長
		・看護部活動計画の概要「教育・業務」 ・仕事と育児の両立について	看護副部長
	《2日目》 13:30～16:00	・安全対策についての講義と演習	医療安全管理者
		・感染防止についての講義と演習	感染対策委員長
	《3日目》 13:30～16:00	・看護記録（個人情報を含む）	記録委員長
職場復帰後	《1日目》 14:00～16:00	・病棟オリエンテーション ・今年度の病棟目標について ・今年度の役割分担について	病棟担当者
		・技術演習	病棟担当者
	《3日目》 14:00～16:00	・技術演習	病棟担当者
		・「復職しての心構え」レポート提出	看護副部長



図1 当院で自主作成した苦情対応DVD

できる

3 看護部委員会活動の現状が認識できる

4 事故防止・感染防止に配慮できる

5 仕事と育児の両立をするための学び、工夫ができる
研修期間は復職直前3日間と復職後1カ月以内の3日間とした。

教育プログラムを表1に示した。

医療安全についての講義と演習に、2時間30分の研修所要時間を設定した。

医療安全についての講義内容は7項目とした。

1. なぜ、今、医療安全が重要なのか？

2. 医療安全の基本的な考え方
これは、DVDを取り入れた。

3. 医療事故は何故起こる？

4. 和歌山労災病院の医療安全体制

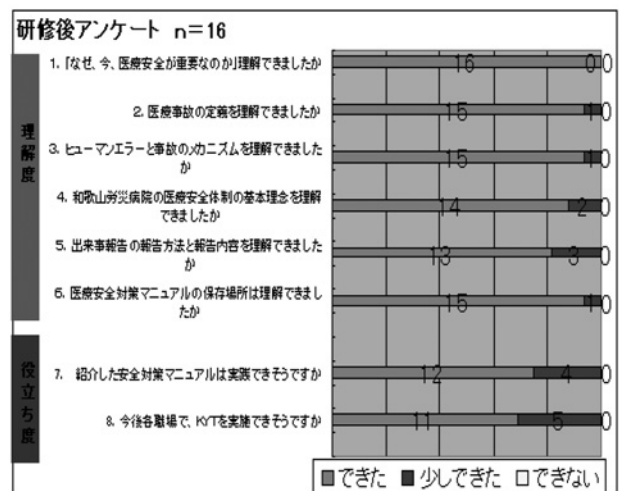
5. 保助看法42条と個人情報保護法

6. 苦情対応について

これもDVDを取り入れた。

7. 具体的な安全対策

表2 研修後アンケート結果



苦情対応DVDは医療現場苦情第一対応者の研修プログラムとして、当院で作成したものを使用した。DVD内容は図1に示した。

次に、医療安全の演習は、KYT（危険予知トレーニング）を行った。KYTを取り入れたOJT（職場内教育）を実施することは、平成19年度の当院医療安全推進委員会の目標の一つとしていた。このため、研修にもKYTを取り入れた。

まず、危険予知の技法を理解していただくために、

1. KYTとは

2. KYTのレベル

3. 安全運転教材 KYTの事例

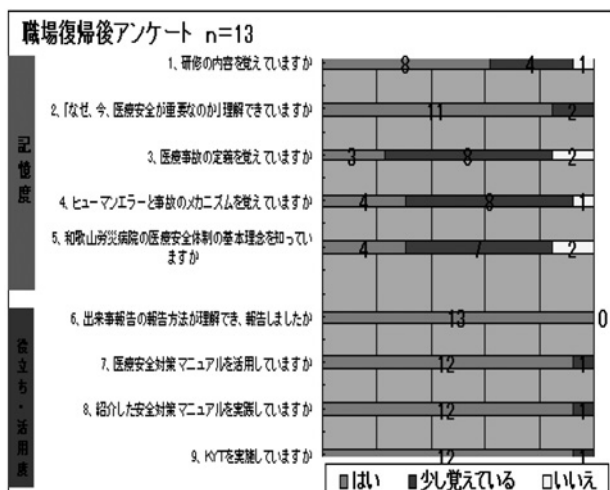
4. リハビリテーション室の事例

5. KYTの進め方

6. KYTで培って欲しいこと

が含まれたDVDを取り入れた。その後、演習問題を実

表3 職場復帰後アンケート結果



施した。

V 実施結果

平成19年度 育児休業復帰者16名全員が育児休業者職場復帰前安全教育を受講することができた。

研修直後アンケートの結果(表2), 理解度, 役立ち度, 共に良い結果を得ることが出来た。

職場復帰後アンケートの結果(表3), 平成19年度育児休業復帰者16名, 内3名は再育児休業中だった。このため, 13名の調査だったが記憶度については少し覚えているが多い結果となり, 役立ち・活用度においては良い結果を得ることができた。

研修直後の意見として「ミスを起こさないか不安」など, 医療事故への予期不安を訴える意見があった。職場復帰後の意見で研修が役に立った具体例として「ミスを起こさないためのポイントがわかり業務に入りやすかつ

た」「事故の対処方法がわかり慌てず対応できた」などの意見を得ることができた。

結果として, 平成19年度育児休業復帰者のアクシデント報告(患者影響度レベル3以上)はゼロだった。また, 平成19年度当院の離職率は4.5%だった。そのうち, 育児休業復帰者職場復帰研修16名の離職者はゼロだった。

VI まとめ

坂本¹⁾は, 看護師が職場を辞める場合の離職パターンの一つとして「医療事故などで精神的に傷つき, 職場を去りたいと考えている場合」があり, このパターンは, 看護師として専門性の視点から, また組織として医療機関の視点から解決しなければならない問題と述べている。このことから, 当院の育児休業者職場復帰前安全教育は復帰者への一支援と成りえたといえる。

最後に今後の課題として, 受講者の記憶度を高める為, 易しく, 覚えやすい, インパクトのある内容を取り入れた研修を実施したいと考えている。

文献

- 1) 坂本すが：打たれ強い看護師の育て方と管理者の心得。月刊ナースマネージャー 8(4)：6-10, 2006.
- 2) 江口 毅：産休・育休・介護・心身不調など休職者の「そのまま退職」を予防する職場復帰プログラムと師長の役割。月刊ナースマネージャー 8(4)：11-19, 2006.

別刷請求先 〒640-8505 和歌山市木ノ本93-1
和歌山労災病院
伊都 香

Reprint request:

Kaori Ito
Wakayama Rosai Hospital, 93-1, Kinomoto, Wakayama-city,
640-8505, Japan

Effectiveness of Safety Training before Returning to Work from Maternity Leave, Concerning to Raise Awareness about Medical Safety

Kaori Ito, Yaeko Hanioka and Hifumi Minehira
Wakayama Rosai Hospital

For the nurses returning to work from maternity leave, our nursing department started to give lectures of 3-days-course prior to reinstatement and after returning to work, from 2002. One of the proposed educational programs is "To be able to consider and to prevent an iatrogenic accident and infection". With lecture and training, 2 and half hours were spared for tactile exercise. 16 returnees took this course in 2007.

The lecture course consisted with 7 lectures including the following topics, namely: "Why is it important to consider medical safety at present?" "Why does medical accident befall?" "Medical safety system of our hospital", "Private Information Protection Law and Law for Health Nurse, Nurse and Mid Wife".

For the tactile exercise, hazard anticipation program which is employed to train the whole staff members of our facility for the past 3 years, was introduced. Inquiry survey was carried out immediately after the lectures prior to reinstatement and it revealed good response in "understanding" and "usefulness", although there were comments complaining anxiety towards medical accident.

Further survey with questionnaires that was carried out after returning to practical scene showed good results in "comprehension" and "usefulness". There were several responses mentioning that "Since I had learned about the key-points to prevent medical mistake, I was able to easily return to service", "I could handle complaint without panic as I had learned how to treat it" etc.

There was no one who left their job after coming back from maternity leave since 2007, and our reinstatement support program is thought to be effective and should be highly evaluated.

(JJOMT, 57: 293—296, 2009)